

共同研究プロジェクト

「個人の思想形成と蔵書の研究

—京都文教大学図書館所蔵の鶴見和子文庫を手がかりとして—

活動報告

鶴飼 正樹・高石 浩一

プロジェクト最終年度として、臨床心理学部と共催で、「河合隼雄・鶴見和子と京都文教—その宗教性をめぐって—」と題したシンポジウムを、2010年2月24日、実施した。シンポジストは、河合隼雄の友人のユング派分析家であり、鶴見和子を招いて1992年に「『黙示録』に向き合う：権力のカリスマと聖戦」と題した国際会議を主催した、ニューポート研究所所長ロバート・ボズナック氏、山王教育研究所の濱田華子氏、京都文教大学前学長の樋口和彦氏の3人で、日本文化に根ざしつつも、国際性を備えた鶴見和子の思想の意義を高く評価する内容であった。

また、昨年度より科学研究費補助金(基盤研究(B))を得て、「『普通の人々の哲学』と『知識人

の思想』の葛藤をめぐる戦後思想史—鶴見和子文庫を開く」をテーマとした共同研究を推進しており、2年目の本年は1月に研究会を実施した。アダム・ブロンソンさん(コロンビア大学大学院歴史学科博士課程)「教養と自己改造—鶴見和子と河合栄治郎を読み合わせて」、西川祐子さん(京都文教大学人間学研究所客員研究員)「1950年代を考えるために—『紡績女子工員生活記録集』と『東京南部サークル雑誌集成』の「ならべ読み」、猿山隆子さん(京都大学教育学研究科教育科学専攻生涯教育学講座)「鶴見和子の学習組織論：『生活をつづる会』における話し合いの記録ノートから」、そして筆者鶴飼は「鶴見和子文庫未公開資料から発見された生活綴方文集『私の家』」と題する発表を行った。